



コツコツ とことん

大仙市立太田中学校
令和4年2月4日
NO. 119



うららかに たくましく ～耕し 萌えたち みのらせ さきみだる～

R3秋田県学習状況調査結果④最終 その他の質問項目では？

これまでの質問項目の他に、『**学校の決まりを守っている**』という規範意識や『**家庭学習**』、『**読書**』に関する質問も調査されています。これらの質問も、学力向上や学習習慣の形成に欠かせないものです。

その結果では、規範意識は太中生の素直さが表れ、県平均を上回っています。規範意識は、前向きな言動や安心して楽しい学校づくりの大きな要因になりますので、ルールの意義や大切さを繰り返し指導していきながら、さらに意識を高めたいと思います。

一方、『家庭学習』『読書』の質問には大きな課題が浮き彫りになっています。そして、それが学習面でも影響しているものと思われます。

家庭学習に関しては、平日、休日共に県平均時間を大きく下回っており、それがテストの正答率にも表れているものと思っています。家庭学習への意識、家庭学習時間、家庭学習の質が、本校生徒の学力向上の鍵の一つになっているものと思っています。学習と部活動を両立させながら、家庭学習量を増やしたり中身の濃い学習にしたりできるよう、家庭学習ノートのチェックだけでなく、家庭学習の仕方や生活リズムの見直しなど、総合的な指導や援助も、今後一層各家庭と連携・協力しながら進めていきたいと考えています。

読書に関しては、2年生は読書好きの回答をしています。1年生は読書に関する意識の低さが伺え、読書量も少ないのが現状のようです。テストの解答を見ると、問題の意味を理解せずに、また、問われていることは何かをつかまないうまま、題意とかけ離れた解答をする生徒もいます。これは読書量が少ない生徒に多くみられます。

文部科学省のHPには、読書の効果について様々な内容が載っています。その中の一つに、「読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。」とあります。文章を読むことは学習の基本としてだけでなく、人生をより豊かに生きていくために必要なものとして認識し、本校では一層読書の推進を進めていきます。

しかし、学校生活の中での時間には限りがあるため、家庭における取組の重要性について次のように書かれています。

「家庭における読書は、一冊の本を媒介にして家族が話し合う時間を持ち、絆を深める手段として重要なものであり、学校、図書館等の連携により、家庭教育支援の取組も活用しつつ行われることが重要である。家庭において子どもを中心に家族で同じ本を読むことで、本を媒介として相互理解を深め、家族の絆が一層深まることを目指す活動である『家読（うちどく）』は多くの市町村において実施されているが、このような取組が更に推進されることが重要である。」

家庭と連携・協力しながら、子どもたちの読書活動を推進していくことは、子どもたちの学力向上に即効性がないことのように思われますが、「地道が一番の近道」の言葉のように『コツコツ、トコトン』と取り組んでいきたいと考えております。

スキー授業 無事終了



新型コロナウイルス感染拡大のため、スキー授業やスキー教室を中止にしている学校がたくさんありますが、太田中は無事2週間にわたり、1・2年生でスキー授業を実施し、昨日2月3日（木）に終了することができました。太田自慢の大台スキー場では、学校生活の中

で目にするのではない子どもたちの姿に出会うこともできました。スキー場がある地域の学校の子供たちは、スキーもスノーボードも上手だし、大好きなんだということも改めて実感しました。まずは、大きなけがもなく終えられたことに感謝ですし、指導して下さった大台スキー学校S A J指導員の先生方に深く感謝いたします。

